

第2回与謝野町総合計画審議会 会議報告書

日時 令和5年9月27日(水) 午後7時30分～午後10時10分

場所 岩滝保健センター 会議室1・2

出席(敬称略)

谷口 知弘	辻村 謙一	木村 順一	米華 千晴
関野 宅矢	長島 由昇	安達 幸三	濱田 祐太
中田 麻由美	井上 尋彰	植田 友香理	樋口 潔
海尻 考昭	細井 昭男	高岡 知子	小山 富美代
市川 孝雄	堀口 満朗	高岡 弘安	

欠席(敬称略)

太田 豊	丸谷 静	木村 憲二	長谷川 達
------	------	-------	-------

事務局

企画財政課 山口課長	同 廣野課長補佐	同 井上係長	
------------	----------	--------	--

傍聴者 なし

「会議の要点」

- まちづくりアンケート結果を共有
- 令和4年度決算概要に対する質疑応答
- 令和5年度当初予算概要に対する質疑応答
- よさのみらい会議プロジェクトたたき案の提案

会議要旨 以下のとおり

開会

- 山口課長の進行により会議を開会
- 新委員による自己紹介

1. 会長あいさつ

皆さんこんばんは。本日は今年度第2回目となります。前回の第1回目は6月28日でしたので、この3ヶ月、無事に暑い夏を乗り越えられてこうして集まることができてよかったと思います。

暑さ寒さも彼岸までと言われるように、ようやく熱帯夜から脱してゆっくり眠れるようになりました。与謝峠を越えてきましたが、峠の道路脇にある温度計は22℃でした。これからも涼しくなってくるだろうなというふうに思います。

今日は事務局からご説明ありましたが、そんな楽しい場面はございません。資料もたくさんありますし、これ全部読もうなんて思うとなんか頭爆発しそうになります。ですので、それぞれの現場をお持ちの方、それぞれ専門の分野のところを見てきていただいたのではないかなと思います。

日頃暮らしの中で感じていらっしゃることを施策として実施されてる事業などに見比べていただいて、疑問に思ったこと、アイデアも含めて伝えていただければと思っております。

3. 第1回会議のふりかえり

- 事務局から第1回会議のふりかえりを説明。

4. まちづくりアンケート結果（速報）について

- 事務局から別紙スライド及び資料1に基づき報告。

<意見等>

- ・ 各施策に対する満足度を示すグラフをみていると、あらゆるものにおいて不満感、不足感を感じていらっしゃる住民の方が多いように見えるが、行政側視点（施策・事業の評価）での気付きもあれば、住民側視点（自分たちで何とかしないといけない、できることをする）での気付きを得る結果として受け止めることができると感じた。
- ・ まちづくりに対する住民の満足度を表す数値やアンケート結果というのは、その傾向としてどの市町でもよく似た状況なのか。今回の結果を比較するものがないので、与謝野町は満足度は高い方なのか、低いほうなのか、というあたりでどのように受け止めたらよいのかと思う。
 - どのような施策や事業があるのか説明するには紙面上の限度があると感じている。日頃からどういう取り組みを役場がしているのか、しっかり発信していく重要性を感じている。
 - 「働く場が少ない」が非常に割合が高くなっている中で、産業と仕事、交流と発信という部分で満足度が低いところを見ると、相関関係があるのかなと感じる。扶助的施策や子育てや教育、また自然環境分野においてはそれぞれの取り組み成果として、比較的満足度が高いという部分を今後の政策展開にあたり非常に参考になる部分と認識している。
- ・ そういう中でも出産と子育てについて、結構評価がよい。
- ・ 出産と子育ての評価が高いというのは、出産・子育ての当事者の意見が吸い上げられていて、民間と行政が非常に協力し合っているところが大きいと思っている。他の事業についても同様に、住民や移住者の方、関わる人たちが自分ごととして取り組むという積み重ねが必要ではないかと思う。行政がやることにとどまらず、その施策によって住民の役割としてどう動くかということが大事だと思う。
- ・ 財政が厳しいという点についても行政がやってくれると思っている人は多く、自分ごとになっていなくて危機感がないと思う。
- ・ NPO法人や民間団体の活動が住民の満足度向上につながった成果だろうと思う。そういう意味では他の施策についても、関係者間の連携・協力によって今後の一つの方向性として見えてくる

のかなと思うので、協働のまちづくり指針策定の検討に活かされたい。

- ・ まちづくりに興味がある方や地域人財をどのようにまちづくりにつなげていくのか、その可能性はまだあると思う。

5. 令和4年度決算概要について

- 事務局から、別紙「説明スライド」及び資料2-1に基づき説明を行った後、質疑応答を実施。

〈質疑応答〉

- ・ 実質公債費比率が全国ワースト3という記事を見たが、どのように受け止めたらよいのか。
→ 財政は厳しい状況にあります。その中で、借入れを抑えしっかり返済していく財政計画で始める。すぐに財政破綻ということはないが、緊張感をもって財政運営に努める。
- ・ 町税が減ると交付税は増えるのか。中長期的な財政状況を考えたとき、自由に使える財源確保についてどう考えるのか。
→ 普通交付税は財源不足が生じる地方公共団体に対して、財源不足額の大きさに応じて交付されるもので、規定の算定方法により計算されている。決算や予算に応じて配分されるものではない。自主的に使えるお金、自由に投資できるお金を持つためにも健全な財政運営や税収など収入アップの努力が必要。

【分野2：観光・移住定住】

- ・ 観光客が与謝野町がなぜ立ち寄らないのか、ふるさと納税額が近隣市町と比較してなぜ伸びないのか。何が違うのか。結果は結果として、ただその原因や理由にアプローチしないと。ふるさと納税を何につかうのかある程度明確にしないと、寄付につながることも難しいのではないかと。ふるさと納税倍増とあるが、その資金が何に使われているかというのが重要である。
→ 観光客を集める内容が弱い中では交流や関係人口を増やす取り組みとして、町内における2次交通や滞在型観光・交流の促進などの事業を広めていく必要がある。また、ふるさと納税については、個人版ふるさと納税、企業版ふるさと納税、クラウドファンディング型ふるさと納税の3本柱で取り組んでいる。ご意見のとおりしっかりと事業に反映させていけないといけないと考えている。
- ・ 人口減少が進展する中で人口増加を図るのは結構重要な問題と認識。その施策として移住定住支援事業がある中で、町の力の入れ具合が分からない。課題は空き家バンクの登録数の少なさだけではない。若い世代にとってこのまちが住みやすい環境・住む場所の提供は大事で、空き家活用を考えたときに町内の建築事業者と手を組んで力を入れていくことが重要。
→ 子育て世帯の移住支援制度があり、高齢者世帯の移住だけでなく若い世帯の移住実績がある。昨年度実施した空家調査ではおよそ500件近くあると判明。登録への働きかけや民間の力により住みやすい環境を地域とつくっていくところだと思っている。
- ・ 移住体験や人が集まる取り組みとして、廃校した施設の活用をされたい。
→ 廃校等空いた公共施設の活用については検討順序に従い、活用の可能性を検討していく流れになる。活用に向けて、文科省の廃校プロジェクトへの登録も検討しているところ。

現在、活用についていくつか提案があり調整中である。

【分野3：健康・福祉】

- ・ 疾病の早期発見・早期治療とあるとおり、予防医学の見地からの啓蒙や施策について具体性をもった対応が必要。とりわけ高齢化が進む中での対策が必要。
 - 健診の受診率を高める取り組みを今後も続けていく必要があると考えている。令和5年度から節目の方への人間ドック補助率をあげている。
 - 高齢者の予防対策について福祉課とも連携しながら推進していきたいと考えている。
 - 高齢者が地域で暮らし続けられる事業、生きがいを持っていただける取り組みを一緒に考えていきたいと思っている。
- ・ 自動車改造等の周知ができていないとある。福祉事業従事者としても知らなかった。地域医療現場等への制度周知は必要。福祉事業従事者としても伝えていければと思った。
 - 対象者が限定的であるため、車販売店等への制度広報等、効果的な周知を図りたい。
- ・ コロナ禍以降、とくに外出の機会が減っている現状がある中で、高齢者も障害のある方も交流の場、楽しめる場所があればと思う。
- ・ 学童保育等の利用が見込めない場合などに介護施設の一部に併設するなど分野横断的に取り組めるといいなと思う。施設利用者にとっても子どもの声が聞こえると嬉しいなと思う。
 - 放課後の子どもたちの居場所について、しっかり確保すべきと考えている。

【分野4：出産・子育て】

- ・ 学童保育、キッズステーションの利用者申込時期が違うことによる影響の声を聞く。また、施設的环境状況等により利用のしづらさもあるのでは。子どもの居場所の設置に関する考えは。
 - 学童保育の施設状況については承知しており、現在動いている最中である。
 - キッズステーションについては、地域の中で子どもたちの居場所をつくられているもので、利用者のアンケート等もしながら事業精査を考えているが、各団体の良さや強みを生かした事業でもあり、内容を平準化していくつもりはない。

【分野5：教育・スポーツ・文化】

- ・ 町内の小・中・高、高等教育機関等の連携ができればと思うが。
 - 一例として、高校魅力化推進事業では加悦谷学舎と小学校との連携事業をしている。学校間連携についてはできるところからやっていきたいと思っている。
- ・ 学校に行きにくい、行けない子どもたちが増えてきている。行けない子どもたちの居場所としてのニーズがある中、進級・進学するタイミングでの連携を町民と一緒にできればと思う。途切れずに関係性が続く、異年齢・異学年・多世代交流からポジティブな気持ちや希望を持つきっかけになればと思う。
- ・ 不登校について、子どもたちの個性や成長に寄り添いながら、家庭の状況を踏まえながら教育委員会や学校現場でも取り組まれている。

【分野6：環境・暮らし】

- ・ 鉄道に関する取り組みは。

→丹後鉄道に関すること、与謝野駅舎管理運営に関することがある。

- ・ 環境団体と公民館事業との連携について、素晴らしい事業にも関わらず参加者が少ない。関わる人も含めた広がりを期待したい。

→より良いプログラムになるようにしていきたい。

6. 令和5年度当初予算概要について

- 事務局から資料2-2に基づき説明を行った後、質疑応答を実施。

<質疑応答>

【分野1：産業・仕事】

- ・ 起業立地予算の内容は。
→条例に基づき奨励事業所へ5年間助成するもの。指定した奨励事業所の事業計画に基づき予算計上している。

【分野3：健康・福祉】

- ・ 子宮頸がんワクチンのキャッチアップ接種について、町外医療機関でも受けられるなど柔軟な対応が望まれる。
→住民登録と所在地が違うケースについて接種方法等について確認する。キャッチアップ接種期間として来年度が最終となるので周知をしっかりとしていきたい。

【分野7：地域協働・行財政・広報広聴】

- ・ 広報広聴事業の予算の中味は。
→広報誌の発行や与謝野町有線テレビ事業がある。今年度は公式LINEをリリース、タブレット端末整備がある。
- ・ 公式LINEについて、ターゲットを絞らないと登録につながらないのでは。しっかりと運用しないといけない。情報発信を各課に任せると個性が出るので、統一感が必要。
→公式LINEでは、欲しい情報が欲しい人に届きやすいようジャンルごとのタブを作っている。運用開始間もないので、ユーザーの声を届けていただき、皆さまの意見を参考に適正な運営に努めたい。

7. 「よさのみらい会議プロジェクト」について

- 審議会会長から資料4によりたたき案を提案。

<質疑応答>

- ・ 交流してアイデアを出すようなイベントはたくさんあって、その場は盛り上がるが実行にはなかなかいかないということがある。この場に参加した人がそれぞれの立場や場所でまちづくりを実践していく部分をどのように担保するか、考えるかというところが伝わるとより良い企画になると思う。
- ・ 他市町の例でいくと、アイデアの企画・運営に対して補助をつけていくというのもある。今年度は予算がないが、トライしていく中で踏み出すためにどんな支援が審議会のできるのか、行政で

できるのかのアイデアを出していけたらいい。

- ・ 1日設定だと1日で終わってしまうので週間です、よさのみらいウィークなど。行政だけでやると話すだけで終わる。事業推進には行政もいるし、事業者もいる。資金提供する人もいる。金融機関などのサポートも取り付けて、事業化に向け支援するなど、本当にやるんだよという姿勢、サポートがないと限界があると思う。
- ・ みらい会議の場で何が生まれるかという幅があると思う。お金もかからないけど人と人や団体が出会うことで、新たな価値が生まれるということはあるだろうと思う。
- ・ 前回の準備会では有志のみなさん、声かけした方々と集うと、いろいろと話が出てきた。何かを投げかけるといろんな案や意見をいただいた。

8. 次回審議会について

- 日時：令和6年3月下旬～4月上旬予定
- 場所：調整中
- 内容：令和6年度予算、実施計画について、ほか

9. 副会長あいさつ

遅くまで熱心なご協議、役場の方にはわかりやすい説明、回答をお世話になりありがとうございました。

この会の目的が総合的なまちづくりの計画の具現化の一翼を担うという意味では、有効な意見がたくさんあったのではないかなと思います。ただ、委員の皆さんが言われた通り、本当に今日お話をしたような中身を実現しようと思うならば、ここの役割かもしれませんが、具体的な行動提議をしていかないと、なかなか当事者意識が持てないだろうと思います。しっかりとしたターゲットを、しっかりとした目標を持って、自治体の役割であったり、役場の役割であったり、自治会の役割であったり企業の役割であったり、あるいは住民の役割であったり、そういったような何をしたらいいかというような具体的な行動を提議していかないと、なかなかここに掲げてあるような中身はそう簡単にはいかないだろうと。そういう意味ではこの協議時間をとりながら議論ができれば少しは進んでいくのかなと思いつつ皆さんのご意見を聞かせていただきました。

どうもご苦労さまでした。

閉会

以上